

## 理事長・堀江重郎の 「百寿者に訊け！長寿のヒケツ」

今回のインタビューは、東京の下町で65年余り眼科の開業医として診療を続ける諏訪部栄先生を、日本抗加齢医学会理事長の堀江重郎先生がお訪ねした。訪問した夕刻も、諏訪部先生は診療中で次々に患者様の診察をこなし、またインタビュー中に訪れた患者様にも気を遣うなど、現役で地域の眼科医療を支えている様子がかがえた。



# 地域と家族のために生きる

す わ べ さかえ  
100歳  
(1918年4月1日生まれ) 諏訪部 栄先生

### 長寿のヒケツ①

#### 寄宿舍で医学部へ通い 1953年に開業

**堀江** 本日は、日本抗加齢医学会の機関誌である『アンチ・エイジング医学』の「百寿者に訊け！長寿のヒケツ」というインタビューでお邪魔しました。今まで現役のドクターの方は出ていらっしゃらないので、お話をうかがうのがとても楽しみです。すべてのドクターの目標ですね、ずっとお元気で、現役でいらっしゃるといことは、100歳にもなられて、おめでとうございます。

**諏訪部** いや、お恥ずかしいですね。本当おめでたいどころじゃないですよ。もう、老化が進んで。気がついたら100歳で。皆さんがおっしゃるから、100歳になったという感覚になったくらいなんです。

**堀江** 先生が学生の頃は、女性でお医者さんになる方はそんなにいらっしゃらない時代ですよ。

**諏訪部** でも、自分にはたいした気持ちもなくて。実家が医者だったので、抵抗感もなく、志望した途端に、父が「嫁入り道具にでもしたら」と言うのでそのくらいの気持ちで。うちのほうは田舎の女学校ですから、4年で卒業し、都会では5年間学ぶので、あとしばらくは勉強しないといけない、というのが